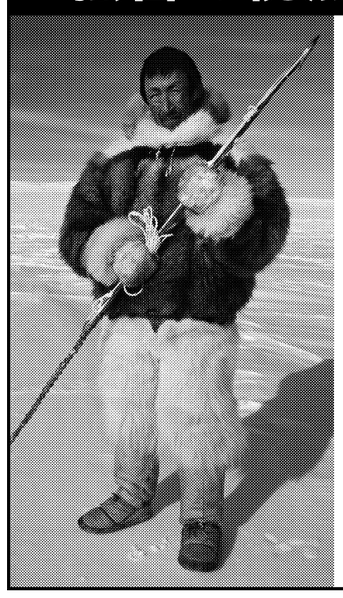
独自の視点で、新しい薬を。



イヌイットの人々に動脈硬化性疾患が少ないのはなぜだろう？ の視点からEPAの研究は始まりました。

北極圏に暮らすイヌイットの人々には、なぜ動脈硬化性疾患が少なかったのでしょうか？ それは、彼らが主食としていた魚などに多く含まれる「EPA」（イコサペント酸）に、血液がドロドロになるのを防いだり、中性脂肪や悪玉コレステロールを減らす働きや、血管を健やかに保つ効果があるからなのです。持田製薬は、この「EPA」にいち早く着目し、さまざまな薬理作用を研究してきました。その成果は、医療の現場で活かされています。

ユニークな視点とオリジナリティで、明日の医療に新しい薬を。

持田製薬は、高脂血症、高血圧症、子宮内膜症、うつ病などの治療薬を提供するとともに、ユニークな視点とオリジナリティで、患者さんや医療現場のニーズに応える医薬品の開発に取り組んでいます。私たちは、これからも「先見的独創と研究」を社是として、明日の医療に新しい選択肢を提供することにより、社会に貢献してまいります。

持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地

Global　世界の最先端技術をもとに日本でも医薬品開発に努め実績を築いていきます。

医療の「A」から「Z」まで。　AstraZeneca　アストラゼネカ

http://www.astrazeneca.co.jp/　アストラゼネカ株式会社

大日本住友製薬

からだ・くらし・すこやかに

大日本住友製薬株式会社
www.ds-pharma.co.jp
大日本住友　検索

一般用医薬品ネット販売へ

ルール作り最終局面

参院選などで中断されていた一般用医薬品（OTC医薬品）のインターネット販売に関するルールの検討が、近く再開される見込みだ。政府は6月にまとめた成長戦略「日本再興戦略」にネット販売容認を明記したものの、一部品目については副作用のリスクを踏まえ、専門家による科学的な検証を経て今秋までに適否を判断するとしていた。併せて、OTC医薬品全般の安全確保のためネット販売事業者に課す条件も定める方針で、世論を二分した議論は最終局面を迎える。

副作用リスクなど検証

秋までに適否判断

OTC医薬品のネット販売を検討する発端になったのは、一部の医薬品を除いてネット販売を禁じた厚生労働省令は違法だとした1月11日の最高裁判決だ。厚労省は2009年6月施行の改正薬事法でOTC医薬品について規定した3段階のリスク分類を医薬品販売の規制に当てはめ、リスクが比較的大きい第1類と第2類の医薬品のネット販売を禁止した。これに対してOTC医薬品をネットで販売していたケンコーコムとウェルネットが、規制は違法だとして国を提訴。最高裁が両社の訴えを認めたことから厚労省は、ネット販売の安全性を確保するため一定のルールを決めるとし、関係者や有識者らの検討会を設けた。

ところが、検討会ではネット販売の全面解禁を主張するネット販売事業者と、全面解禁に慎重な立場の薬剤師やドラッグストア業界の団体が、利用者の安全をどこまで担保できるかを巡って対立。検討会は両論を併記する格好で5月末に議論を打ち切った。

医薬品のネット販売の是非は安倍晋三内閣の成長戦略でも焦点となったが、結果として日本再興戦略には「インターネット販売を認める」と明記する一方で、「消費者の安全性を確保しつつ、適切なルールの下で行う」との条件を付けた。安全確保のための具体策として厚労省では、医師が処方する医療用から一般用に移行した医薬品のうち、移行の承認から4年未満と日が浅い21品目と、劇薬に指定されている4品目に関し、専門家に副作用リスクの検証を求め、ネット販売の適否を秋までに決める。

これら第1類医薬品に含まれる25品目を除いても、OTC医薬品約1万1400品目のうち99%超をネットで販売できるようになる。だが、25品目には発毛剤や解熱鎮痛剤などのヒット商品が含まれ、これらの扱いが認められるかどうかは、収益を大きく左右する。25品目の中で副作用リスクが大きいと判断されたものがあれば、OTC医薬品としての承認を取り消す可能性もあり、この場合、医師の処方せんがなければ薬局・薬店での対面販売もできなくなる。

厚労省ではOTC医薬品全般の安全確保に向けた販売ルールも、併せて検討する。これまでの議論ではネット販売事業者にテレビ電話システムの使用を義務付けるという案も浮上しており、厳しい条件が課される可能性も依然ぬぐえない。

製薬企業の社会貢献

製薬企業は医薬品を製造・販売し、人々の健康な生活を支える。こうした事業自体が重要な役割を担っている。一方、直接的な利益とは別に、企業の責任として社会貢献活動（CSR）に積極的に取り組む企業も多い。今回、MSDの小学校での訪問授業「サイエンス・スクール」とファイザーの市民活動・研究支援「ファイザープログラム」を紹介する。

小学校で訪問授業

MSD「サイエンス・スクール」

MSDはユネスコが主導機関として推進する「持続発展教育」に賛同し、小学校での訪問授業「サイエンス・スクール」を行っている。サイエンス・スクールでは科学のルールである①観察による問題発見②結果の予測③仮説の証明―を社員自らが座学と実験を通じて、児童に伝える。

同社は2010年からの10カ年成長戦略の3本柱の一つに「レピュテーション（顧客から最も信頼され、尊敬される企業となる）」を掲げ、この具体的な活動としてサイエンス・スクールに重点を置いて、活動している。11年から開始し、全国で小学6年生、約50人が参加した。一班4、5人に、MSDの社員がサポートとして1人付く。

軟こうをケースに詰めて完成。真剣な表情で取り組む児童

「決まった部署がやる、というのではなく社員巻き込み型」と同社広報部門企業広報の小松眞澄氏が言うように、参加する社員は公募で選ぶ。倍率は3倍と高い。児童の反応を見ることで自身の原点に戻り、新鮮な体験になると社員からも好評だ。理科好きの児童が減っている中で、科学がいかに将来に役立つかを伝えたい、という教育現場のニーズに合わせて、MSDが児童の興味を引き出させる工夫をした授業を展開。同時に、社員が日ごろの仕事を見直す機会にもなっている。

児童が飽きないようにクイズを取り入れながら病気や薬について紹介し、製造工程を実験用にアレンジした軟こうづくりを行った。50度Cに温めた白色ワセリンに薬効成分のかわりとして流動パラフィンで溶かした食紅を混ぜ、氷水につけてワセリンが固まるまで混ぜる。それをへらを使ってケースに詰めて完成。完成品を手に、うまくならした側面を見せ合ったり、実際に手に塗ったりした。授業後のアンケートでは、参加児童全員が「この授業で学んだことが今後役立つ」と答えた。

被災地支援の一環として、7月3、4日に宮城県気仙沼市、19日に岩手県釜石市でも実施した。

心身ケア活動助成

ファイザープログラム

ファイザーは2000年に「ファイザープログラム」を創設し、〝心とからだのヘルスケア〟に関する市民活動、市民研究を支援している。資金提供をはじめ、さまざまなサポートを行う。助成は人件費、事務所家賃も対象に1件当たり300万円を上限に、最大3年間助成する。

同プログラムは心身ケアにおいて〝就労〟は大変重要な意味を持つとする。人、社会の役に立っている、という自覚を持つことは心身ケアの目的になり、手段にもなるという。今年の応募からは特に経済的、社会的に頼られる30、40、50代の中堅世代の心身ケアに的を絞る。

2012年度は新規・継続を含めた16件に3000万円を助成する。これまでの13年間で延べ3296件の応募の中から新規・継続を合わせ29件に5億5555万円を支援してきた。

その中の一つである新農業人ネットワーク山形（旧山形県新規就農者ネットワーク）の「『農業の力』でニート・ひきこもりの若者を元気にするプロジェクトVer3・0」は山形県で農業を始めたメンバーを中心に、約70人が参加する。メンバーの半分は山形県外の出身者。農業研修を通じて、若者に技術と精神力を身に付けてもらうとともに、職業意識と自信を持たせて社会復帰を後押ししている。ファイザープログラムを3年間継続して助成を受けている。

挿し木する若者。農業研修を通じて社会復帰を目指す

ニート・ひきこもりの支援団体と協力し、これまで300人以上が農業体験した。現在、2人が参加し、食用農産物の生産・販売、自生農場の開墾・運営を行っている。新農業人ネットワーク山形の田中俊昭事務局長は「何も知らずに農業に飛び込んだ新規農業者は、まわりの人にたくさん助けてもらった。だから、支援の重要性や求めている人の気持ちが分かる」と言う。

独立して就農した若者を見守りながら、農業体験者の受け入れや、最上川の水質調査や河川清掃も行う。

女性のための漢方のポータルサイト
Kampo view

スマートフォンでいつでもどこでも気軽にチェック！

漢方を学んで、ココロとカラダを健康に。

パソコンからも！

携帯電話はこちら

www.kampo-view.com　漢方ビュー　検索

運営：漢方ビュー事務局 ／ 協賛：株式会社ツムラ

Eisai　hhc human health care

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業　エーザイ

ARUTURE FREE OFLF

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

医療技術の進歩とともに、生み出してきた医薬品の数々は、多くの人びとの命を救い、健康的な生活に貢献しています。しかし未だ、治療法が確立されていない疾病も多く存在するという現実。そこに、第一三共の大きな使命が残されています。革新的医薬品を創出し、多様な医療ニーズに応え、世界中の人びとの健康で豊かな生活を支えていく。私たちの情熱がやがて、ひとつでも多くの笑顔につながる、その日まで。

www.daiichisankyo.co.jp

Daiichi-Sankyo
第一三共株式会社